

河井継之助記念館  
 友の会会報  
 第31号  
 2022.3  
 表紙：50円（送料別）  
 〈編集・発行〉  
 河井継之助記念館  
 新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1  
 〒940-0053  
 Tel.0258-30-1525  
 Fax.0258-30-1526  
 〈編集人〉  
 荒木法子 恩田富太  
 白石恒夫 中野武夫  
 友の会事務局  
 〈構成・印刷〉  
 高速印刷株式会社

## 第二代河井継之助記念館館長 就任のごあいさつ

館長 中田 仁 司



令和元年十二月十二日、稲川明雄前館長が急逝されました。私は告別式の会場にいても受け入れられませんでした。その一年八カ月後、令和三年九月一日付で館長に就任することになったのです。身の引き締まる

思いです。私は長岡市立千手小学校を退職後、長岡市教育委員会に勤務していました。稲川前館長からは長岡市立阪之上小学校勤務以来二十年以上ご指導頂き、『万国公法』をはじめ崇徳館、

国漢学校等の蔵書印がある古籍を整理くださいました。子どもたちに河井継之助、小林虎三郎、三島億二郎、鶴殿団次郎らの生き方や関係性を語りました。教職員には伝統を守り新しい教育を創造すること、人間を育てていくことが長岡の教育であり、先人が立派だった、内務大臣や連合艦隊司令長官になったということを考えるのではない。史料から彼が何を考え、どのような教育を受けて、何を理想に掲げて生きていったかを調べていくことで、自分がわかることが目的だと熱く語られました。

と嘉永五年に江戸へ遊学したり、文久三年上洛し継之助の辞職願を書いたりします。『河井継之助傳』の資料提供もしています。森一馬は河井家を再興した森源三の兄です。安政四年、森一馬は牧野忠雅の命で蝦夷・樺太を探索し『罕有日記』を著します。阪之上小学校初代校長秦八郎は毛利一馬から西洋兵学を習った記録があります。森一馬も秦八郎も戊辰戦争で隊長を務めています。

平成十五年、十日町市立川治小学校初代校長高橋赤山顕彰の際、「長沢一族と高橋赤山」と題して講演して頂きました。私はそれを機に全小学校を調べ妻有の教育黎明期は竹垣金五郎、山口深造、長沢矢一郎など国漢学校の教師をはじめ小林寛六郎ら長岡藩士に支えられたこと、『小学国史』『德国学校論略』も確認できました。平成三十年には米百俵塾において「高橋赤山く他地域に広がる米百俵の教え」として成果を発表する機会を与えて頂きました。

稲川先生によって河井継之助へ導かれていたのでしょうか。私は「ふるさと長岡に学び未来を切り拓く気概をもつ子ども」を教育信条としています。記念館の展示は小学生も分かるように解説されています。当館を訪れた子どもたちが、ずいぶんワンパクな継之助が何を学び、どのような志をもち、その実現に向け挫折を乗り越えていったのか。いかに視野を広げ財政改革を実現したのか。人間河井継之助の理念と気概にふれ、自らの生き方に重ね、大人になって自分たちの子や孫に継之助を語り継いでもらいたいと願っています。

河井継之助の経済・産業の道を切り開くひとつの道しるべとして山田方谷、三島中洲、外山脩造、洪沢栄一らとの関係を改めて見ていきたいものです。